水のありがたみ

長年水不足に悩まされてきた香川県は、香川用水により恩恵を受けることになりました。香川用水は、早明浦ダムで開発された水を池田ダムで取水して導水トンネルで三豊市財田町へ送り、ここから東西の幹線水路によって県下に農業用水、上水道用水、工業用水として送水しています。まんのう町と三豊市に香川用水の記念碑が建立されています。

■佐文の香川用水記念碑（香川県まんのう町）

仲南町（現まんのう町）佐文地区は、昔から干ばつに苦しめられ、雨乞いのための綾子踊りが伝えられてきた土地です。昭和 9 年、14 年などの干ばつ年には大きな被害を受け、平年でも用水不足のために多大の労力を使いながら合理的な稲作を行うことができませんでした。このため地区総会の決議に基づき香川用水導入の申請を行い、工事が昭和 47 年に始まり、昭和 51 年 3 月に竣工しました。香川用水の完成により、佐文地区（受益面積 90ha）では、従来の水利慣行が廃止され、水利用が合理化されて、受益者は平等に権利義務を有することになりました。香川用水記念碑には「これで水不足は全く解消し将来当地域の営農向上に大いに貢献するものと期待している」と記されています。＜佐文の香川用水記念碑の碑文、綾子踊の里佐文誌編集委員会編「綾子踊の里佐文誌」1980 年など＞

佐文の香川用水記念碑

綾子踊の碑（加茂神社）

（地理院地図に加筆）

■満水池の香川用水導入記念碑（香川県三豊市）

高瀬町（現三豊市）の満水池は、古くは腕（かいな）池と呼ばれていました。小池を弘法大師が腕で錫杖を使って増築したという伝説によるものでした。享保 3 年（1718）に地底を浚渫して貯水量を増やした際に、満水池と改称されました。満水池の受益地（受益面積 70ha）となる高瀬町は、用水不足に悩まされてきた土地柄で、昭和 14 年の干害では町内の稲作は壊滅状態だったと言われています。待望の香川用水が満水池に導入されたのは昭和 51 年 12 月でした。香川用水導入記念碑には、「お陰で多年干害に苦しめられたこの地区も毎年のように豊穣の秋を迎えることができることになりました」と刻まれています。＜満水池の香川用水導入記念碑の碑文、高瀬町編「高瀬町史通史編」2005 年など＞

満水池の香川用水導入記念碑

満水池

（地理院地図に加筆）